

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準1 理念・目的

点検・評価項目 <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	現状の説明 〇列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 研究科の理念・目的は適切に設定されているか					
a ◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】	①「理工学研究科 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(2015年9月作成)(233～234頁)において、「1 理念・目的」を掲載している。 ② 大学院学則別表4に「人材養成その他の教育研究上の目的」を研究科・専攻ごとに定めている。				
(2) 研究科の理念・目的が、大学構成員(教職員及び学生)に周知され、社会に公表されているか					
a ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること。 【約150字】	①「理工学研究科 2016年度教育・研究に関する年度計画書」は、「1 理念・目的」を含め、「合同教授会」で承認しており、本研究科教職員に周知されている。 ② 大学院学則別表4「人材養成その他の教育研究上の目的」は、明治大学ホームページに公開しており、受験生を含む、社会一般に公表している。				
(3) 研究科の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか					
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	①「教育・研究に関する年度計画書」は、毎年度、執行部が責任主体となって見直しを行っている。その執行部案を各専攻・系主任で構成される「総務委員会」、さらに「合同教授会」で確認・承認している。2015年度は7月4日開催の合同教授会で承認され、決定した。 ② 大学院学則別表4「人材養成その他の教育研究上の目的」を変更するには、研究科委員会の審議を経て、大学院委員会、学部長会、理事会の審議承認を経て改正することとなっている。2015年度は、2017年度からの専攻再編に伴い、別表4の改正をした。(2017年4月1日施行)				

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 研究科として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか					
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	① 求める教員像は、「理工学研究科 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(234頁)「2教員・教員組織」において掲載している。 ② 教員組織の編制方針は、「理工学研究科 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(234頁)「2教員・教員組織」において掲載している。 ③ 「求める教員像」及び「教員組織の編制方針」を明記した「教育・研究に関する長期・中期計画書」を研究科委員会(合同教授会)で承認することにより、本研究科教職員で共有している。				
b ◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	① 専任教員の任用・昇格に関しては、明治大学教員任用規程、明治大学特任教員任用基準、明治大学客員教員任用基準に基づき「明治大学理工学部・理工学研究科教員任用・昇格審査内規」で定め、明文化している。なお、任用・昇格の手続きに関しては「理工学部専任教員推薦内規」で明文化している。 ② 任用時の求める能力は、明治大学理工学部・理工学研究科教員任用・昇格審査内規「第2章」に、昇格については明治大学理工学部・理工学研究科教員任用・昇格審査内規「第4章」に規定している。				
c ◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	研究科長が研究科委員会の議長として、研究科に関する校務をつかさどり、研究科長は学部長を兼ねている。各専攻における専攻会議(学科会議)及び各専攻から選出された代表者が委員を務める教学委員会をはじめとした各種委員会を定期的に開催し、役割分担等について協議・確認している。各委員会での協議結果は専攻主任が委員を務める総務委員会ならびに全大学院担当者が参加する研究科委員会(合同教授会)にて審議・承認される。このように責任の所在は明確である。				
(2) 研究科の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか					
教員の編制方針に沿った教員組織の整備					
a ◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令(大学設置基準等)によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮している(設置基準第7条第3項) 【約400字】 ※現在数とは、2016年5月1日現在の数値です。 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)、専攻別に説明する。	理工学研究科は6専攻(電気工学、機械工学、建築学、応用化学、基礎理工学、新領域創造)から構成されている。 <博士前期課程> 大学院設置基準上の必要教員数 電気工学専攻11名、機械工学専攻11名、建築学専攻11名、 応用化学専攻7名、基礎理工学専攻9名、新領域創造専攻7名 専任教員数()は研究指導教員内数 電気工学専攻 29名(29名) 機械工学専攻 26名(26名) 建築学専攻 21名(21名) 応用化学専攻 13名(13名) 基礎理工学専攻47名(47名) 新領域創造専攻9名(9名) <博士後期課程> 大学院設置基準上の必要教員数 電気工学専攻 7名 機械工学専攻 7名 建築学専攻 7名 応用化学専攻 7名 基礎理工学専攻 7名 新領域創造専攻 7名 専任教員数()は研究指導教員内数 電気工学専攻 20名(20名) 機械工学専攻 14名(14名) 建築学専攻 12名(12名) 応用化学専攻 9名(9名) 基礎理工学専攻34名(34名) 新領域創造専攻6名(6名)		新領域専攻については必要教員数が不足している。		2017年度に専攻再編を行うため、この問題は本年度で解消する。

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画
				(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	<博士前期課程> 研究指導教員における必要教授数 電気工学専攻 8名 機械工学専攻 8名 建築学専攻 8名 応用化学専攻 4名 基礎理工学専攻 6名 新領域創造専攻 4名 専任教授数 電気工学専攻 14名 機械工学専攻 13名 建築学専攻 13名 応用化学専攻 8名 基礎理工学専攻 31名 新領域創造専攻 6名 <博士後期課程> 研究指導教員における必要教授数 電気工学専攻 3名 機械工学専攻 3名 建築学専攻 3名 応用化学専攻 3名 基礎理工学専攻 3名 新領域創造専攻 3名 専任教授数 電気工学専攻 14名 機械工学専攻 13名 建築学専攻 10名 応用化学専攻 8名 基礎理工学専攻 30名 新領域創造専攻 3名				
b ◎『教員組織の編制方針』と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】	開設科目総数に占める専任教員の担当科目の比率（専兼比率）は、授業報告伝票ベースで93%となっている。演習科目は100%専任教員が担当している。	建築学専攻では、国際的視野に立った教育を実行するために特任教員を任用しており、多国籍学生を対象にした教育の多様化が図られている。		国際性豊かな教育を維持するための教員任用計画を2016年度中に取りまとめ、研究科として引き続き特任教員の任用を後押しする。	
	客員教員を11名（教授11名）を任用している。客員教員はすべて連携大学院の所属であり、近年の学際的研究推進に対応する新しい形の研究者育成に対応している。				
教員組織を検証する仕組みの整備					
a ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】	学部・研究科の執行部により教員・教員組織の検証を行い、検証結果を「学部教員任用計画」と「教育・研究に関する年度計画書」に執行部(案)としてまとめ、合同教授会で承認している。具体的には、単年度計画は、学部の将来構想や必要な授業科目の検証と合わせて、補充・増員すべき教員の主要科目、資格を検証し、次年度の「学部教員任用計画」に反映させている。また、長期・中期計画は自己点検・評価結果を参考として、教員・教員組織の検証を行い、その編制方針の見直しを行い、「教育・研究に関する年度計画書」に反映させている。				

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画	
				「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか					
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。【400字】	① 任用・昇格については「明治大学工学部・理工学研究科教員任用・昇格審査内規」に基づき審査している。 教員任用に関しては公募募集しており、教員資格条件は研究業績や教育業績等の評価に加えて私立大学の現状や課題に理解があることが挙げられる。さらに、授業科目と教員の適合性を各学科で判断し、総務委員会・合同教授会の承認の下各学科の教員によって構成される専任教員選考委員会(人事選考委員会)で審議され、審査報告書を基に総務委員会・合同教授会で審議し合同教授会での投票により決定する。 教員昇格に関しては、各学科からの依頼を受けて総務委員会・合同教授会の承認の下各学科の教員によって構成される専任教員選考委員会(人事選考委員会)で審議され、審査報告書を基に総務委員会・合同教授会で審議し合同教授会での投票により決定する。 ② 2015年度には、専任教員6名(准教授4名、講師2名)を任用し、7名(准教授から教授)の昇格を行った。				
(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか					
教員の教育研究活動等の評価の実施					
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。【400字】	① 教育活動の業績評価について、独自に教育貢献賞を制定し(2006年7月)、「理工学部・理工研究科教育貢献賞に関する内規」に基づき、質の高い特色ある授業等を展開している教員に対して表彰を行っている。2015年度は、建築学専攻から1名の教員が表彰を受けた。 ② 研究活動の業績評価について、研究委員会では、「理工学部研究報告」を発行しており、査読を行っているため、質の高い論文の投稿がなされている。さらに、同委員会では所属する教員の申請を受け付け、それぞれの研究を評価し、研究スペース・大型機器予算の配分等を行うことで研究活動の活性化に努めている。				

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準3 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
教員の資質向上のための研修・諸活動 (FD) の実施状況とその有効性					
b ●教育研究, その他の諸活動 (※) に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 ※社会貢献, 管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動を指します。 ※『授業』の改善を意図した取り組みについては, 「基準4」(3) 教育方法で評価する。 【600～800字】	○夏休み科学教室「地元の子供たちに科学技術の楽しさを教える」 2015年8月5日, 教員46名, 学生アルバイト148名, 参加者333名 (保護者同伴者288名), 地域貢献 ○FD講演会 2015年度実績: 2回 (5月1日, 10月2日) 1. 「日本は, なぜ, 安全後進国と言われるのか～モノづくりの国際化と大学の工学教育の役割について～」 教員32名 2. 「内部室保証について」 教員11名 ○研究会「生田サロン」, 学部内の研究交流, 人的交流を通じて研究と教育の活性化 【1回目:2015年7月10日】 機械工学専攻教員: 「3Dプリンタが可能にする革新的な機械設計」 基礎理工学専攻教員: 「理工学と融合した脳科学へ」 23名 【2回目:2015年12月18日】 機械工学専攻教員: 「流れを視る - レーザと画像処理を用いた流体計測 -」 基礎理工学専攻教員: 「ランダムとはどういうことか」 38名 ○安全・教育講習会「薬品講習」「高圧ガス講習」「エックス線講習」, 新任教員2名, 安全教育 ○CITI JAPAN 大学院倫理教育, 実施率96% ○新任教員研修 (教務部主催), 毎年春・夏の年2回, 授業改善 ○「明治大学理工学部動物実験に関する要綱及び同委員会内規の制定」, 環境保全・安全確保 ○大学院教育懇談会 (大学院主催), 2016年4月「大学院生の指導について (学生相談室の視点から)」 「大学における教育・研究と著作権」, 理工執行部2名, 兼任・特任・客員・新任5名, 学生の理解・著作権の理解	動物実験に関する要綱を制定し, 動物実験を適正に行うために必要な事項を整備した。		ヒトを対象とした実験に対しても規定の整備・教育を行う。	

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか						
a ◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその内容も明記する。	① 教育目標として大学院学則別表4に「人材養成その他教育研究上の目的」を定めている。 ② 「課程修了にあたって修得しておくべき学習成果」と「その達成のための諸要件」を明確にした「学位授与方針」を、博士前期・後期課程別々に目指すべき人材像、具体的到達目標として研究科委員会(合同教授会)において定めている。					
(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか						
a ◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその内容も明記する。	学位授与方針に示した修得すべき学習成果を達成するために、教育内容や教育方法の基本的考え方を明らかにした理工学研究科の「教育課程の編成・実施方針」を、博士前期・後期課程別々に研究科委員会(合同教授会)において定めている。					
(3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が, 大学構成員(教職員及び学生等)に周知され, 社会に公表されているか						
a ◎公的な刊行物, WEBサイト等によって, 教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	① 教職員については, 大学院便覧(12~13頁)で公開している。さらに, 専攻会議を通じて専攻ごとに知らされることにより全教員に周知徹底されている。 ② 学生についても, 在学生に配付する大学院便覧(12~13頁)において明示し, 毎年公表されている。さらに, 新入生には年度初めのガイダンスで説明している。 ③ 社会一般への公表は, 研究科ホームページにおいて教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を掲載している。					
(4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●教育目標, 学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり, 責任主体・組織, 権限, 手続を明確にしているか。また, その検証プロセスを適切に機能させ, 改善につなげているか。 【約400字】	教育目標, 学位授与方針及び教育課程編成・実施方針の検証プロセスは, まず, 「自己点検・評価委員会」にて行われる。その後検討の必要がある場合は, 理工学部・理工学研究科執行部で執行部(案)を作成し, 「教学委員会」「総務委員会」「研究科委員会(合同教授会)」で審議され, 承認後に発令されることになる。なお, 「自己点検・評価委員会」は1年に3回程度定期的に行われ, 委員会での活動を合同教授会で報告している。科学技術の進歩によって社会から期待される理工学分野の高度専門職業人の定義は常に変化するため, 新たな人材育成の教育課程についての議論を行っている。					

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか						
必要な授業科目の開設状況						
a ◎CPに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【300字程度】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」), 専攻別に説明する。	理工学研究科では、自然の法則と数理の構造を理解し、それらを応用して、人類が継続的に発展し、幸せに生きることを実現する、すなわち、理と工の融合を目指して次の6つの専攻(系)を設置している。 ・電気工学専攻・機械工学専攻・建築学専攻(同専攻国際プロフェッショナルコース)・応用化学専攻・基礎理工学専攻(情報科学系, 数学系, 物理学系)・新領域創造専攻 <博士前期課程> 建築学専攻「国際プロフェッショナルコース」は英語で授業を行っている。2015年度に「JABEE」及び「UNESCO/UIA」によるプログラムの認定を受けている。 2015年度の総開設科目数は429科目, 主要科目は120科目, 特修科目は293科目, 専攻共通科目16科目である。 <博士後期課程> 後期課程には科目を開設していない。 研究の遂行に必要な前期課程科目の履修を促す(コースワーク)と同時に, 研究指導を受けながら主要科目(リサーチワーク)を実施している。					
b ◎コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていること。【修士・博士】 【200~400字程度】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」), 専攻別に説明する。	<博士前期課程> 修了に必要な単位: ・30単位(電気工学, 機械工学, 建築学, 基礎理工学専攻) 内訳: コースワーク18単位とリサーチワーク12単位 ・34単位(応用化学専攻, 新領域創造専攻) 応用化学専攻: コースワーク18単位, リサーチワーク16単位 新領域創造専攻: コースワーク22単位, リサーチワーク12単位 <博士後期課程> 博士後期課程においてコースワークの科目を履修することは可能であるが, 必修ではないため, 全ての学生が履修しているわけではない。		博士後期課程にコースワーク科目が設置されていない。		コースワーク科目について, 教学委員会・各専攻で検討を行う。あわせて, 博士後期課程の改定カリキュラムを策定する。	カリキュラム改定へ向けての手続きを進め, 博士後期課程在籍者に対し, 新規コースワーク科目を開講する。

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、4年間の履修モデル、適切な科目区分など）					
c ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。（学生の順次的・体系的な履修への配慮） 【約400字】	<博士前期課程> 理工学研究科では、主要科目（リサーチワーク）ごとの履修モデルをWEBサイト上に公開し、リサーチワークと特修科目（コースワーク）の構成が示されている。また、学生の研究テーマごとに指導教員が2年間の履修計画を確認し、リサーチワークとコースワークの適切性を管理している。順次的・体系的な履修への配慮については、1年次では論文作成に関する指導を受けながら、既往研究に関する文献調査等を行い、研究報告会において討論を深めつつ研究テーマの絞り込みを行う。さらに、原則として科目を18単位以上取得することを必要としている。2年次の主要科目（リサーチワーク）では、1年次の総括を踏まえ、必要に応じて研究計画の見直し・修正を行う。継続して研究テーマの報告会を実施し、論文の提出に向けて研究の進捗状況を確認するとともに研究内容に対するフィードバックを行う。 <博士後期課程> 順次的・体系的な履修への配慮については、1年次は修士論文の内容を吟味しつつ、研究の独創性、学術的意義を確認し、具体的な研究テーマを決定する。その後、速やかに研究に着手し、指導教員との連絡をもとに成果を蓄積していく。合わせて、研究の遂行に必要なと判断した科目を履修する。2年次は1年次の研究経過を踏まえ、必要に応じて研究計画の見直し・修正を行う。学位論文の提出に向けて研究の進捗状況を確認し、指導教員との綿密な議論を研究内容にフィードバックしていく。3年次はこれまでの研究を総括しつつ、研究業績及び成果をまとめ、指導教員の推薦を経て、学位請求書を提出する。				
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性					
d ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	<課程共通> ① 教育課程の検証プロセスは、カリキュラムの見直しを社会や学生のニーズに合わせて各専攻の専任教員による専攻会議での検証を基に毎月開催される「教学委員会」に提案することにより、全専攻で審議を行っている。今後も引き続き理と工の融合に関わる領域横断的なカリキュラムを編成、実践していき、教育の質を低下させないための取組みとして新たなカリキュラムの方向性を打ち出していく。 ② 2015年度は、2017年度から始まる「理工学研究科専攻再編」に向けて、カリキュラムや定員の見直しを行った。				

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか						
特色ある教育プログラムの内容とその効果 (当該学部等固有のプログラムやGP探採事業など)						
a ●学部の特色、長所となるプログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)、専攻別に説明する。	<p><課程共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「他大学大学院の科目を履修できる制度」 ・大学院特別聴講生(単位互換)制度 ・大学院数学連絡協議会(11大学),2015年度,学生1名受入れ ・広島大学大学院理学研究科との協定 ・龍谷大学大学院理工学研究科との協定,2015年度,学生1名受入れ ・静岡大学大学院自然科学系教育学部との協定(博士後期課程) ・首都大学院コンソーシアム <ul style="list-style-type: none"> ○「連携大学院方式による研究機関等との教育研究協定」 以下のとおり,大学院学生9名の研究指導を依頼している。 ・国立研究開発法人産業技術総合研究所(4名) ・N T T物性科学基礎研究所 ・国立研究開発法人海洋研究開発機構 ・国立研究開発法人物質・材料研究機構(3名) ・国立研究開発法人理化学研究所(1名) ・神奈川県産業技術センター(1名) 					
研究科間等における国際的な教育交流の内容とその効果 (学部間協定、短期海外交流など)						
b ●学部の特色、長所となる国際化プログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)、専攻別に説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ○本研究科独自の海外交流 2009年度以降,11大学12学部(2016年3月末現在)と協定を締結 そのうち9学部(8大学)と交換留学を含む覚書を締結 2012年9月,2名派遣 2013年度,2名受入 2014年度,3名派遣,1名受入 2015年度,7名派遣,2名受入 ○日本学生支援機構留学生交流支援制度に採択された大学院学生交流 [2012年度] ・韓国慶尚大学との合同シンポジウム,韓国人学生40名受入 ・米国オレゴン大学とのワークショップ,15名派遣・15名受入 [2013年度] ・建築学専攻国際プロフェッショナルコースへの交換留学生受入プログラム,フランスから2名受入 ・大学間・学部間協定締結校からの学生受け入れによる短期ワークショッププログラム,19名(奨学金支給対象は17名)受入 [2014年度] ・建築学専攻国際プロフェッショナルコースへの交換留学生受入プログラム,フランスから1名受入 ・米国南カリフォルニア大学との共同建築・都市デザインワークショップのための短期派遣プログラム,11名派遣 ・米国オレゴン大学とのパラレルスタジオのための短期派遣プログラム,15名送派遣 ・タイ国チュラロンコン大学との共同建築・都市デザインワークショップへの派遣プログラム,15名派遣 [2015年度] ・建築学専攻国際プロフェッショナルコースへの交換留学生受入 	建築学専攻では,国際的視野に立った教育を実行するために特任教員を任用しており,多国籍学生を対象にした教育の多様化が図られている。2015年度には,U I A建築教育憲章に準拠した国際的通用性の担保された建築教育プログラムとして認定された。	送出し数は増加傾向であるが,受入数は横ばいである。	海外の大学との新たな協定を増やすことや新規の教育・研究プログラムを実施することにより,協定留学や研究交流を一層進める。		留学生の受入れを促進するため,特別招聘教授などを活用し英語で授業を行う科目を設置する。

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
	プログラム、フランスから2名受入 ・タイ国チュラロンコン大学との共同建築・都市デザインワークショップへの派遣プログラム、19名派遣 ・ユネスコWAT・マッケンジープレスビテリアン大学ワークショップ派遣プログラム、3名派遣 ・カリフォルニア大学バークレー校共同建築・都市デザインワークショップ派遣プログラム、8名派遣 ・香港大学共同建築・都市デザインワークショップ短期派遣プログラム、6名派遣 ・アセアンセンター国際デザインワークショップ派遣プログラム、4名派遣 ○トビタテ！留学Japanプログラムの派遣学生数 第1期（2014年度） 3名 第2期（2015年度） 6名（採択7名） 第3期（2015年度） 3名（採択4名） 第4期（2016年度） 3名					

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 教育方法及び学習方法は適切か					
教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性					
a ◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること。 【約200字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	<p><博士前期課程></p> <p>① 「講義科目」は、特修科目群や共通総合科目群などで採用しており、231科目（コマ）を開講している。</p> <p>② 「演習科目」は、研究指導を目的とした主要科目や実践的な知識等の獲得を目的とした科目で採用されており、132科目（コマ）を開講している。</p> <p>③ 「実習科目」は、インターンシップ等を単位化している。</p>				
b ●教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において適切な教育方法を取っているか。 【約400字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	<p><博士前期課程></p> <p>大学院学生は専修科目を選択したうえで指導教員を選択する。指導教員は日常的に大学院学生の研究指導を行い、特修科目選択の助言を行う。なお、学内及び研究室に設置された研究推進に必要な実験装置、分析装置等を大学院学生が利用する場合は、その操作方法・結果の解析方法を指導教員から教授される。さらに、学術フロンティア等の大型プロジェクトの場合は、専攻の枠を超えて装置の操作方法や結果の解析方法の指導を受ける。一例として、過去の大型プロジェクトで設置された振動実験解析棟であれば、その実験施設を担当している教員と建築学専攻及び機械工学専攻の大学院学生がグループ（振動懇談会）を結成し、講習会を実施するなど情報交換を行っている。他にも様々な研究グループがあり、これらには博士後期課程の大学院学生も参加している。このようにすべての大学院学生は研究分野・テーマごとに研究室単位以上で、場合によっては複数の研究グループに参加し、研究を推進しながら修士論文を作成している。</p> <p><博士後期課程></p> <p>大学院学生は専修科目を選択したうえで、指導教員を選択する。指導教員は、日常的に大学院学生の研究指導を行う。さらに、研究推進に必要な学内及び研究室に設置された実験装置、分析装置等を大学院学生が利用する場合は、その操作方法・結果の解析方法を指導教員から教授される。さらに、学術フロンティア等の大型プロジェクトの場合は、専攻の枠を超えて装置の操作方法や結果の解析方法の指導を受ける。また、ほぼすべての大学院学生は研究者養成型の助手を兼務しており、自身の研究以外の時間を学部生の指導に充てている。このことは、自身の研究を客観的に見つめなおす機会を得るというだけでなく、大学教育においてキャリアを積むという経験が将来のキャリアアップにつながるという考えの下で実施されている本学の特色ある制度の有効な活用となっている。このようにすべての大学院学生は研究分野・テーマごとに研究室単位以上で、場合によっては複数の研究グループに参加し、博士前期課程の学生と一緒に研究を推進しながら、国内外での学会発表を経て、学位論文を作成している。</p>				

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
学習指導・履修指導(個別面談, 学習状況の実態調査, 学習ポートフォリオの活用等)の工夫						
c ●履修指導(ガイダンス等)や学習指導(オフィスアワーなど)の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字~400字】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	<博士前期課程> 指導教員は「修士学位取得のためのガイドライン」に沿って大学院学生の学位取得までの指導を行う。大学院学生は、1年次の初めに履修計画書を作成し2年間の履修及び研究の計画を立て、毎週、指導教員と直接面談して研究の進捗状況を報告するとともに、次の段階へ進めるための助言を受ける。専攻毎に時期は異なるが、すべての専攻が専攻毎に中間審査会を設定している。これは、学生同士で研究の進捗状況を確認することによって、学生自身で研究を推進する意識を高められる工夫となっている。 <博士後期課程> 指導教員は「博士学位取得のためのガイドライン」に沿って大学院学生の学位取得までの指導を行う。毎週、大学院学生は指導教員と直接面談して研究の進捗状況を報告するとともに、次の段階へ進めるための助言を受ける。博士後期課程における研究指導方法は、上述の研究指導方法と合わせて、学会発表に力を入れている。原則として年度に1回以上の国内外での学会発表を義務づけ、自身の研究の発表だけでなく、最新の研究の情報収集にあたることも務めるよう指導している。					
(修士・博士課程) 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導						
d ◎研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること(修士・博士)。 【400字】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	<博士前期課程> 博士前期課程における具体的な研究指導方法は次のとおりである。大学院入学時に各学生に対する主指導教員1名を定め、主要科目(リサーチワーク)科目の研究テーマを定めるとともに、コースワーク科目の履修指導を行う。さらに基礎理工学専攻(数学系)においては、副指導教員制を実施しており、副指導教員を選抜する。学期期間中において指導教員は週1回程度の割合で主要科目の研究報告を受け、結果を議論するとともに研究方針を指導する。必要があれば随時研究指導を行う。大学院学生は1年次修了時に研究の総括を行い指導教員に報告する。指導教員はその結果を踏まえて成績評価を行うと同時に2年次の研究方針を指導する。1年次終了時には多くの専攻では中間審査会を開催し、複数教員による研究審査を実施しているため、指導教員は大学院学生のプレゼンテーションに関する指導を行う。 学位取得までには、2年次年度の12月に学位審査の登録、同2月中旬に学位申請論文3冊の提出、同2月下旬に専攻毎に学位論文審査会での審査というプロセスとなっている。2015年度の修士論文提出率は、94.0%であり、指導教員はこれら審査手続きが滞りなく進むように適切な指導・助言を行っている。 <博士後期課程> 各指導教員が研究の進捗状況を確認しているが、研究科としての規定がないため、各教員が独自に評価している。					

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか						
a ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること。 【約300字】	<p><博士前期課程> シラバスは全研究科統一様式に従って、授業の概要・到達目標、各回の授業内容、履修上の注意、準備学習の内容、教科書、参考書、成績評価の方法が明記されている。シラバスは「教学委員会」が編集の責任主体となっており、各教員に全学部統一書式での執筆を依頼している。内容に関しての点検は学部の教学に関することを審議する教学委員会の委員が点検しており、必要があれば修正をかけている。なお、シラバスはWEBサイト及び学生向けポータルページ(通称:Oh-o! Meijiシステム)で学生に周知されている。主要科目の授業内容について、半年間ごとの履修計画のみ掲示されているが、学生の研究内容に沿って研究指導が行われる。</p> <p><博士後期課程> 博士後期課程では、研究指導が中心となっており後期課程での科目の設定がなされていない。しかしながら、指導教員と協議したうえで博士前期課程の特修科目、他研究科科目及び他大学院科目が履修できるようになっており、こうした科目のシラバスはWEBサイト及び学生向けポータルページ(通称:Oh-o! Meijiシステム)で学生に周知されている。</p>					
c ●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】	シラバスは「教学委員会」が編集の責任主体となっており、各教員に全研究科統一書式での執筆を依頼している。検証については各専攻の教学委員が行い、内容に補足が必要な場合は教学委員を通じて依頼し、補筆を行っている。					
(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか						
a ◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約200字】	<p>① 成績評価についてはGPA制度を導入しており、成績評価基準については便覧に明記している。</p> <p>② 論文審査については、課程別に次のとおりである。</p> <p><博士前期課程> 修士学位請求論文については、「明治大学学位規定」に則り、主査である指導教員に他2名の副査を加えた計3名により審査している。</p> <p><博士後期課程> 博士学位請求論文の評価については、主査1名、副査2名以上により「理工学研究科 学位請求論文の取扱いに関する内規(課程博士)」に従って審査を行い、研究科委員会において合否判定の投票を行っている。</p>					

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善（授業に関わるFD活動）に結びつけているか						
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約400字】	○生田サロン 年に3回程度開催、各教員のリサーチワーク（主要科目）を充実させる情報交換の場として研究委員会が主催する理工学研究科研究交流会を実施。 2015年度は、7月10日と12月18日に実施し、計4名の教員が発表し、交流を図った。					
c ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	教育内容等については、各専攻・系の会議にて検討され、カリキュラム等に変更がある場合は「教学委員会」に提案され、承認される手続きとなっている。					

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか						
b ●学位授与にあたって重要な科目(基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など)の実施状況。 ●学習成果の「見える化」(アンケート、ポートフォリオ等)に留意しているか。 【約400字】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。	本研究科の学位請求論文については専門的な知識のみならず科学技術を社会とのかかわりの中で捉える広い視野を持ち、境界領域や新しい分野にも積極的に挑戦できる活力ある人材を養成するという研究科の教育目的に沿った質の高いものである。 <博士前期課程> 2015年度の学位授与率は博士前期課程で94.0%である。おおむね修業年限内に修了が可能となっている。2015年度の修了生の91.8%が就職、2.4%が進学をしている。就職は各専攻に関連した電気、機械、建築、化学、IT、教員、公務員と多岐にわたり、幅広い分野において活躍できる高度職業人を育成するという本研究科の目的と合致している。					
●学位授与率、修業年限内卒業率の状況 ●卒業生の進路実績と教育目標(人材像)の整合性があるか。 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。	<博士後期課程> 2015年度の学位授与率は博士後期課程で61.5%である。おおむね修業年限内に修了が可能となっている。2015年度の修了生の就職先は、「民間企業5名、教員5名、その他8名」となっている。					
c ●学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を実施しているか。 【約400字～600字】	学生の自己評価については、博士前期課程修了者を対象に、修了者アンケートを実施している。2015年度は2016年2月に実施し、228名の回答を得ており、学位授与者の65.3%の回答率となっている。一方、卒業後の評価等を実施していない。 アンケートは厚生労働省の「教育訓練給付制度」指定講座として義務付けられている授業実施状況に係るアンケート調査を用いている。学生が受講した授業、学位論文作成および研究指導について、学生の評価を確認することが出来る。また、自由記述欄が設けられており学生の意見を吸い上げる場ともなっている。					
(2) 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか						
a ◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎(研究科)学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるかを審査する基準(学位論文審査基準)を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】	<博士前期課程> 学位取得のための要件は、大学院便覧に明示すると同時に、「修士学位取得のためのガイドライン」として大学院シラバスや研究科WEBサイトで公表している。本ガイドラインでは、学位請求までのプロセス、修士論文に求められる要件(論文審査基準)、学位審査の概要等を明示している。 <博士後期課程> 学位取得のための要件は、大学院便覧に明示すると同時に、「博士学位取得のためのガイドライン」として大学院シラバスや理工学研究科ホームページで公表している。本ガイドラインでは、学位請求までのプロセス、博士論文に求められる要件(論文審査基準)、学位審査の概要等を明示している。					

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画	「改善を要する点」に対する発展計画
				G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述
b ●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】 ※ 課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	<博士前期課程> 修士学位を請求しようとする大学院学生は、指導教員の指導を受け、予備登録を行う。予備登録を受けて各専攻会議は主査および副査2名の論文審査委員を選抜し、面接試問の日時を決定する。論文審査委員は学位請求論文を査読し、面接試問に臨む。その後、論文審査委員が厳格に論文を評価する。各専攻では、審査委員会で論文審査委員の評価結果を集計し、論文審査報告書を作成する。さらに、本論文審査報告書を総務委員会、合同教授会で審議して、学位請求論文の可否を決定し、修士学位を授与する。 <博士後期課程> 博士学位を請求しようとする大学院学生は、指導教員の指導を受け、学位請求書及び学位請求論文を提出する。学位請求を受けて各専攻会議は指導教員及び審査論文に関連ある科目の2名以上の教員を審査委員として選抜し、総務委員会に付議する。総務委員会では、専攻主任より学位請求者、論文提出要件及び論文説明会日程の提案を受け、承認し、論文説明会を公示する。大学院学生は、審査委員同席で論文説明会を実施する。その結果を受け総務委員会で学位論文の受理を提案し、研究科委員会で受理の可否を決定する。論文審査委員は学位請求論文を査読し、面接試問及び最終試験を実施し、厳格に内容を審査した上で、審査報告書を作成する。「研究科委員会」で主査が審査結果を報告し、投票によって学位請求論文の可否を決定する。				

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか (「AP」の全文記述は不要です)						
「求める学生像」と「当該課程に入学するにあたり、習得しておくべき知識等の内容・水準」の明示						
a ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約400字】	① 理工学研究科の課程別に入学者の受入方針を定めている。なお、求める学生像として博士前期課程では「自然科学や人文・社会分野における基礎的な教養を身につけた、論理的な思考力と強い探究心をもって理工学の発展に寄与することを希望する意欲ある学生」とし、博士後期課程は「専門分野の研究活動を深化させる強い探究心を備え、自ら課題を発見し、それを積極的に解決していく意欲に溢れる学生」とし、修得しておくべき知識等の内容・水準を博士前期課程では2点、博士後期課程は2点明示している。 ② 入学者の受入方針の公表についてWEBサイト、大学院便覧、履修の手引き、大学院ガイドブック及び大学院学生募集要項に掲載し、社会に幅広く公表することにより、受験生を含む社会に幅広く公表している。					
(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学選抜を行っているか						
a ●学生の受け入れ方針と入学選抜の実施方法は整合性が取れているか。(公正かつ適切に入学選抜を行っているか。 【約800字】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。	<博士前期課程> 「一般入学試験 (I期・II期)」「社会人特別入学試験 (I期・II期)」「外国人留学生入学試験 (I期・II期)」「飛び入学試験 (II期)」「国際プロフェッショナルコース入試 (I期・II期)」「学内選考試験」「秋季入試」を行っている。 <博士後期課程> 「一般入学試験 (I期・II期)」「社会人特別入学試験 (I期・II期)」「外国人留学生入学試験 (I期・II期)」「秋季入試」を実施している。					

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画																																																		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述																																																	
(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか																																																						
収容定員に対する在籍学生数比率の適切性																																																						
a ◎部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である。(修士・博士・専門職学位課程) 【約200字】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。	<p>※ 2016年5月1日現在の数値</p> <p><博士前期課程> 収容定員718名に対し、2016年度の在籍学生数は695名であり、収容定員に対する在籍学生数比率は0.97である。 また、専攻別にみるととおりである。</p> <p>専攻名 収容定員(名), 在籍学生数(名), 比率(倍)</p> <table border="1"> <tr><td>電気工学専攻</td><td>150</td><td>157</td><td>1.05</td></tr> <tr><td>機械工学専攻</td><td>154</td><td>138</td><td>0.90</td></tr> <tr><td>建築学専攻</td><td>152</td><td>150</td><td>0.99</td></tr> <tr><td>応用化学専攻</td><td>70</td><td>86</td><td>1.23</td></tr> <tr><td>基礎理工学専攻</td><td>122</td><td>118</td><td>0.97</td></tr> <tr><td>新領域創造専攻</td><td>70</td><td>46</td><td>0.66</td></tr> </table> <p><博士後期課程> 収容定員114名に対し、2016年度の在籍学生数は53名であり、収容定員に対する在籍学生数比率は0.46と低い水準で推移しており、定員を充足させる方策の策定が急がれる。 また、専攻別にみると次のとおりであり、機械工学専攻及び基礎理工学専攻が特に未充足である。</p> <p>専攻名 収容定員(名), 在籍学生数(名), 比率(倍)</p> <table border="1"> <tr><td>電気工学専攻</td><td>18</td><td>14</td><td>0.78</td></tr> <tr><td>機械工学専攻</td><td>21</td><td>3</td><td>0.14</td></tr> <tr><td>建築学専攻</td><td>15</td><td>10</td><td>0.67</td></tr> <tr><td>応用化学専攻</td><td>15</td><td>10</td><td>0.67</td></tr> <tr><td>基礎理工学専攻</td><td>30</td><td>6</td><td>0.20</td></tr> <tr><td>新領域創造専攻</td><td>15</td><td>10</td><td>0.67</td></tr> </table>	電気工学専攻	150	157	1.05	機械工学専攻	154	138	0.90	建築学専攻	152	150	0.99	応用化学専攻	70	86	1.23	基礎理工学専攻	122	118	0.97	新領域創造専攻	70	46	0.66	電気工学専攻	18	14	0.78	機械工学専攻	21	3	0.14	建築学専攻	15	10	0.67	応用化学専攻	15	10	0.67	基礎理工学専攻	30	6	0.20	新領域創造専攻	15	10	0.67		博士後期課程の機械工学専攻及び基礎理工学専攻については定員充足率が低い。		<p>産業界と直結している理工学研究科において、進学率は景気の動向に左右されやすく、近年は進学率が下がっている傾向にある。2017年度に行う専攻再編にて後期課程における定員設定について見直した。</p>	<p>後期課程進学者が学位取得後のキャリアに役立てる事が出来、産業界から望まれる人材となれるような科目をコースワークとして設置し、充実させることで学生がキャリアパスを描けるようになることで進学意欲を高めた。</p>
電気工学専攻	150	157	1.05																																																			
機械工学専攻	154	138	0.90																																																			
建築学専攻	152	150	0.99																																																			
応用化学専攻	70	86	1.23																																																			
基礎理工学専攻	122	118	0.97																																																			
新領域創造専攻	70	46	0.66																																																			
電気工学専攻	18	14	0.78																																																			
機械工学専攻	21	3	0.14																																																			
建築学専攻	15	10	0.67																																																			
応用化学専攻	15	10	0.67																																																			
基礎理工学専攻	30	6	0.20																																																			
新領域創造専攻	15	10	0.67																																																			
定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応																																																						
b ◎現状と対応状況 【約200字】	2016年度博士前期課程入学者は入学定員に対して0.93倍に達している。イングリッシュトラックである建築学専攻国際プロフェッショナルコースは0.71倍となっている。また、博士後期課程については、定員未充足である。																																																					

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか					
a ●学生の受入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【400字】	<p>入学者の受入方針は、自己点検・評価委員会で検討を行い、加筆・修正が必要な場合は執行部会で議論し、さらに「入試委員会」「総務委員会」で審議し、「理工学部・理工学研究科合同教授会」において承認している。</p> <p>入試制度の検証については、各専攻の選抜結果に対し、2015年度は入試実施時期にあわせて3回にわたり合同教授会にて審議を行い、適正であることを確認した。入学試験の公正さを保つための仕組みについては、入試委員会にて議論を続ける。</p> <p>入学試験実施に関する要領は4月中旬に「入学試験問題作成・管理等に関する業務体制」を入試委員会を通じて提案を行う。7月、8月、2月と各3回に分けて行われる入試についてはそれぞれ入試実施前に実施される入試委員会を通じて当日の実施要領が提案・承認される。</p> <p>改善の方針として、全体的に書類の種類を削減する様心掛けている。</p> <p>2015年度「学びに関するアンケート」では、95.7%が志望する研究科に入学できたと回答しており、目的の研究科に入学できていることが読み取れる。</p>				

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準6 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画													
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述											
(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか																	
a ●修学支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	修学支援に関する方針、組織はないのが現状であるが、b項のとおり仕組みで修学支援を実施している。																
b ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】	<p>留籍者については、研究指導担当教員の指導のもと、修学に向けた準備を行っている他、適宜職員による相談を行っている。休学・退学者に関しては、指導教員の承認を必要とすることで休学・退学理由だけでなく面談等を行いながら学生の現状把握を行っている。また、留籍者や休学者及び退学者に関して教学委員会及び教授会においても確認・検証している。</p> <p>理工学研究科の経済的支援として、主に以下の奨学金がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治大学大学院研究奨励奨学金 ・日本学生支援機構奨学金 ・明大私費外国人留学生奨学金 ・明治大学大学院貸費奨学金 ・民間・地方公共団体奨学金 <p>学業に積極的に取り組む学生の学習を経済的に手助けしている。</p> <p>研究成果の発表の場として国内外の学会等での発表に対しては助成を行っており、学生が研究成果を実感出来る取組を推進している。2015年度は、博士前期課程における学会研究発表助成件数は、国内325件海外181件である。博士後期課程における学会研究発表助成件数は、国内8件海外9件である。</p>	<p>国際学会への参加は研究の活性化に加え教育の国際化に大きく貢献している。渡航費や学会参加費などの学生の負担は大きいものの、渡航費・参加費などの助成により、国際学会への参加者を増加させてきている。</p> <p>具体的には、2010年度に119件であった大学院生による海外学会への渡航費・参加費の助成申請者数は2015年に201件と大幅に増えている。</p> <table border="1"> <tr><td>2015年度</td><td>201件</td></tr> <tr><td>2014年度</td><td>141件</td></tr> <tr><td>2013年度</td><td>129件</td></tr> <tr><td>2012年度</td><td>112件</td></tr> <tr><td>2011年度</td><td>129件</td></tr> <tr><td>2010年度</td><td>119件</td></tr> </table>	2015年度	201件	2014年度	141件	2013年度	129件	2012年度	112件	2011年度	129件	2010年度	119件	<p>学会助成金だけでは研究交流を行なう補助として不十分である。従来の学会助成に加え、2016年度中に国際学会参加を含めた研究交流のための支援策を議論し提案する。</p>		
2015年度	201件																
2014年度	141件																
2013年度	129件																
2012年度	112件																
2011年度	129件																
2010年度	119件																
	現状では対象となる学生がいない。 対象となる学生が発生した場合は全学的な制度を活用し、対応出来る体制を構築している。																
	主に全学的な制度を活用して対応している。理工学研究科では主に英語コースで受入れをおこなう研究科間協定による交換留学について、英語でのオリエンテーション実施や履修指導等の個別対応を実施している。																
	理工学研究科では学生の研究室滞在時間が長いため、主に研究指導教員が学生のニーズを把握している。必要に応じて制度や運営方法の改革・改善を提案し、教学委員会及び教授会において確認・検証している。加えて全学的な制度も積極的に活用している。																

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準6 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(2)進路支援に関する方針を定め、学生への支援は適切に行われているか。						
a	●進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	就職・キャリア支援活動として各専攻が関連する業界から企業の方を招聘し公開講座を開講している。また、就職活動の導入として農学研究科と合同でキャリアガイダンスを開催している。アンケートを基に次年度以降の企画に反映している。				
b	◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】	生田キャンパスでは、まず、理工学部、農学部それぞれ就職指導(担当)委員会がおかれ、各学科・専攻から選出された委員と生田就職キャリア支援事務室と伴に年間4回の会議が開かれ、情報交換がなされ各学科・専攻にフィードバックされている。また同委員会で議論された内容に従い、生田キャンパスでは、10月初旬の就職・進路ガイダンス(参加者約1800人)を皮切りに、各種就職支援講座、講演会、工場・事業所見学会(参加者約240人)、コンピテンシー診断(参加者約1800人)、エントリーシート対策講座(参加者約1,150人)、グループディスカッション講座、筆記試験対策テスト、就職適性検査、「SPI2講座」WEBテスト模擬試験説明会、個人・集団面接対策講座、就職活動体験報告会等々、約30項目に及ぶ支援行事を行っている。				
		さらに12月初旬から3月までの期間には、業界研究会、学内企業セミナー、OB・OG懇談会等が330件以上実施されるとともに(延べ参加者約12,000人)、1月末には就職活動ガイダンスが学科ごとに開催され、具体的な就職活動指針、推薦応募等の手続きなどについて説明している。				

2015年度 理工学研究科 自己点検・評価報告書

基準10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a ◎自己点検・評価を定期的の実施し、公表していること。 【約400字】	本学部における自己点検・評価は、自己点検・評価委員会で行っている。合同教授会で選出された委員長と担当教務主任、各学科及び各専攻(系)から推薦された委員(重複を含む)、さらに総合文化教室から推薦された委員で構成している。2015年度は、2回開催した。2014年度理工学研究科自己点検・評価報告書を明治大学ホームページで公表している。					
(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか						
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること 【800字～1000字程度】	本学部の内部質保証の方針は、実績の評価については「自己点検・評価委員会」に、教育活動への反映は各運営に関する委員会が担うこととしている。自己点検・評価委員会は、点検・評価結果から改善方策を策定し学部長に報告するものであり、各運営に関する委員会は学部長・学部執行部の決定した方針に基づき審議を行い、各種改善方策の実施にあたる。この内部質保証の方針は、2004年2月17日の教授会において学部専門委員会に関する内規の改正が合意されて以降、実施されている。 日常的な課題に対する改善策は、学部長・教務主任・大学院委員で構成する執行部において立案し、各種専門委員会、総務委員会、合同教授会の審議を経て実行に移している。年間の点検・評価は「運営に関する委員会」、「その他委員会」とは独立した合同教授会の専門委員会である自己点検・評価委員会が行うシステムとなっている。 なお、各委員会は内規の定めにより活動内容を教授会において報告している。					
●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること	2014年度大学評価(認証評価)結果において努力課題とされた以下の事項について、執行部会・教学委員会でコースワーク科目の実施時期・内容について議論した。 努力課題101「理工学研究科博士後期課程において、リサーチワークにコースワークを適切に組み合わせたカリキュラムとはいえないので、課程制大学院制度の趣旨に照らして、同課程にふさわしい教育内容を提供するよう改善が望まれる。」		「共通総合科目」に設置している授業科目の一部を博士後期課程のコースワーク科目として活用することや、博士後期課程のコースワーク科目として望まれる内容について検討はしたが、詳細は明確になっていない。		2016年度中に、2017年度開講の博士後期課程コースワーク科目を決定する。	
●学外者の意見を取り入れていること	「人を対象とした実験」「動物実験」の実施方法・安全倫理に関する考え方について聖マリアンナ医科大学から指導を仰ぎ、本学における体制について執行部会・該当教員と対策について意見交換を行った。	「明治大学理工学部動物実験に関する要綱」を制定し、2016年度から施行した。		ヒトを対象とした実験に関する内規を最近の関連法規等と照らし合わせて改正する。また、学外識者の意見を取り入れながら学内での研究体制が安全かつ適正に行なわれているか確認する。		